

2020（R2）年度の浜松市域の温室効果ガス排出状況について（速報値）

1 2020（R2）年度の温室効果ガス排出量

- 本市の2020年度の温室効果ガス排出量は、4,433千t-CO₂であり、基準年度（2013）比22.6%減少でした。前年度比5.5%減少しました。二酸化炭素は基準年度比26.2%減少に対し、二酸化炭素以外は基準年度比41.1%増加でした。二酸化炭素以外の増加の要因は、温室効果ガス排出量全体の7.3%を占めるHFCsが63.8%増加していることがあげられます。
- 森林等による二酸化炭素吸収を考慮すると、4,061千t-CO₂となり、基準年度比23.3%減少となります。
- 一方、全国における温室効果ガスは、基準年度比18.3%減少でした。

表1 本市と全国の温室効果ガス排出量

（単位：【本市】千t-CO₂/年、【全国】百万t-CO₂）

	2013 基準年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2020年度増減率			
									基準年度比	前年度比		
本市	二酸化炭素	5,419 (94.7%)	4,963 (93.5%)	4,963 (93.5%)	4,966 (93.1%)	4,679 (92.2%)	4,580 (91.8%)	4,270 (91.0%)	4,001 (90.3%)	-26.2%	-6.3%	
	二酸化炭素以外	306 (5.3%)	343 (6.5%)	343 (6.5%)	371 (6.9%)	394 (7.8%)	408 (8.2%)	422 (9.0%)	432 (9.7%)	+41.1%	+2.2%	
	合計	5,725	5,306	5,306	5,337	5,074	4,988	4,692	4,433	-22.6%	-5.5%	
	森林吸収による二酸化炭素吸収	-427	-427	-427	-416	-405	-392	-384	-372	-372	-12.8%	-3.2%
	合計（森林等による二酸化炭素吸収を考慮）	5,298	4,879	4,879	4,921	4,668	4,595	4,308	4,061	-23.3%	-5.7%	
全国	二酸化炭素	1,318 (93.6%)	1,267 (93.2%)	1,226 (92.8%)	1,206 (92.5%)	1,191 (92.2%)	1,146 (91.8%)	1,108 (91.4%)	1,044 (90.8%)	-20.8%	-5.8%	
	二酸化炭素以外（三ふっ化窒素除く）	90 (6.4%)	92 (6.8%)	95 (7.2%)	98 (7.5%)	101 (7.8%)	102 (8.2%)	104 (8.6%)	106 (9.2%)	+17.8%	+1.7%	
	合計	1,407	1,359	1,321	1,304	1,291	1,247	1,212	1,150	-18.3%	-5.1%	
	森林吸収による二酸化炭素吸収	-52	-50	-50	-48	-48	-47	-43	-44	-44	-13.8%	+3.7%
	合計（森林等による二酸化炭素吸収を考慮）	1,356	1,309	1,271	1,257	1,244	1,200	1,169	1,105	-18.5%	-5.5%	
全国に占める浜松市の割合 （森林による二酸化炭素吸収を考慮）	0.39%	0.37%	0.38%	0.39%	0.38%	0.38%	0.37%	0.37%	0.37%	-5.7%	-3.7%	

※ 二酸化炭素以外：メタン、一酸化二窒素、代替フロン類

※ （ ）書き：当該年度における温室効果ガス別構成比

※ 端数処理の関係で、表内の合計値が一致しない場合や、パーセンテージが100にならない場合がある。以下同様。

※ 全国のは「日本の温室効果ガス排出量データ（1990～2018年度）確報値」を参照。

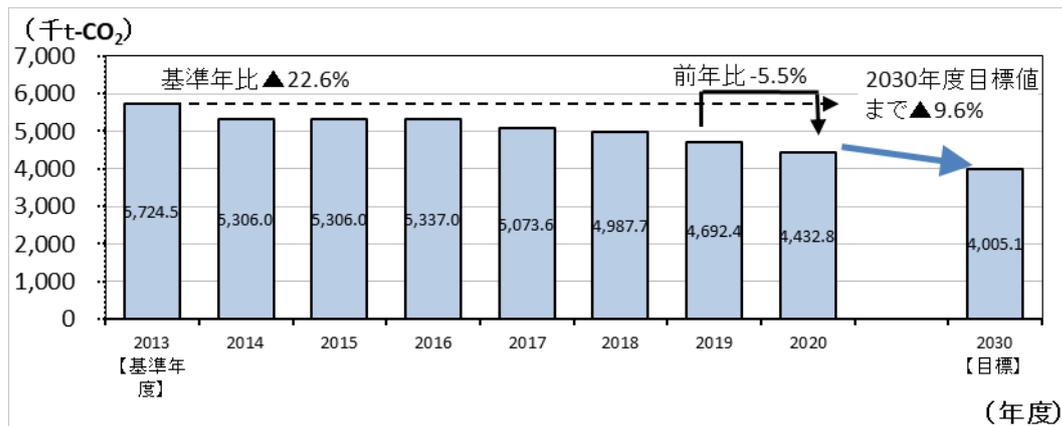


図1 本市の温室効果ガス排出量の推移

2020 (R2) 年度の二酸化炭素排出量（確報値）

- ▶ 部門別二酸化炭素排出量は、基準年度比で産業部門 31.6%減少、運輸部門 13.8%減少、民生・家庭部門 30.4%減少、民生・業務部門 31.9%減少、廃棄物処理部門 14.2%増加でした。
- ▶ また、一人当たりの排出量は 5.1 t-CO₂ で、基準年度比で 25.9%減少、前年度比で 6.2%減少でした。
- ▶ 一人当たりの排出量を全国と比較すると、全国の排出量は 8.3 t-CO₂ で浜松市より高い水準ですが、減少傾向が続いており、基準年度比 20.0%減少で前年度比 5.8%減少でした。
- ▶ 2020 年度は、本市および全国いずれでも、温室効果ガス排出量の減少が見られていますが、コロナ禍による全般的な活動の低下による影響も大きかったものと考えられます。

表 2 部門別二酸化炭素排出量の推移

(単位:【本市】千 t-CO₂/年、【全国】百万 t-CO₂、【一人当たり】t-CO₂)

	2013 基準年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2018年度増減率	
									基準年度比	前年度比
本市										
産業部門 (工場、農業、建設業等)	1,322 (24.4%)	1,091 (22.0%)	1,091 (22.0%)	1,089 (21.9%)	1,076 (23.0%)	1,014 (22.1%)	965 (22.6%)	904 (22.6%)	-31.6%	-6.3%
運輸部門 (自動車、鉄道、船舶)	1,423 (26.3%)	1,344 (27.1%)	1,344 (27.1%)	1,349 (27.2%)	1,351 (28.9%)	1,384 (30.2%)	1,329 (31.1%)	1,226 (30.6%)	-13.8%	-7.8%
民生・家庭部門 (住宅)	1,201 (22.2%)	1,127 (22.7%)	1,127 (22.7%)	1,136 (22.9%)	1,020 (21.8%)	1,036 (22.6%)	872 (20.4%)	835 (20.9%)	-30.4%	-4.2%
民生・業務部門 (商業、事務所等)	1,403 (25.9%)	1,317 (26.5%)	1,317 (26.5%)	1,306 (26.3%)	1,139 (24.3%)	1,055 (23.0%)	1,015 (23.8%)	955 (23.9%)	-31.9%	-6.0%
廃棄物処理部門 (ごみの焼却)	71 (1.3%)	84 (1.7%)	84 (1.7%)	86 (1.7%)	93 (2.0%)	91 (2.0%)	88 (2.1%)	81 (2.0%)	+14.2%	-8.7%
二酸化炭素排出量合計	5,419	4,963	4,963	4,966	4,679	4,580	4,270	4,001	-26.2%	-6.3%
1人当たり二酸化炭素排出量	6.8	6.2	6.2	6.2	5.9	5.8	5.4	5.1	-25.9%	-6.2%
全国										
二酸化炭素排出量合計	1,318	1,267	1,226	1,206	1,191	1,146	1,108	1,044	-20.8%	-5.8%
1人当たり二酸化炭素排出量	10.3	10.0	9.6	9.5	9.4	9.1	8.8	8.3	-20.0%	-5.8%

※ () 書き：当該年度における部門別構成比

(1) 各部門における二酸化炭素排出量の状況

産業部門

全排出量の 22.6%を占める産業部門は、前年度比 6.3%減少しました。農林水産鉱建設業が前年比 30.5%増加したものの、産業部門の約 8 割を占める製造業が前年比 12.5%減少したことから、全体の排出量が減少しました。

運輸部門

全排出量の 30.6%を占める運輸部門は、前年度比 7.8%減少しました。自動車保有台数は、全体で前年度比 0.1%増加とほぼ横ばいで、その内訳では、乗用車は前年度よりわずかに減少、貨物車、バス・特殊車、軽自動車は前年度よりわずかに増加しています。燃料使用量では全ての油種で減少していることから、排出量が減少しました。

民生家庭部門

全排出量の 23.9%を占める民生・家庭部門は、前年度比で 4.2%減少しました。都市ガスが 1.3%、プロパンガスが 6.5%増加しているものの、排出量の 8 割以上を占める電力は前年度比 5.5%減少し、更に灯油は 12.8%減少しました。このことから、全体の排出量が減少しました。

民生業務部門

全排出量の 23.8%を占める民生・業務部門は、前年度比で 6.0%減少しました。都市ガスが 1.3%、プロパンガスが 6.5%増加しているものの、7 割近くを占める電力で 5.5%減少したため、全体の排出量が減少したと考えられます。

廃棄物処理部門

全排出量の 2.0%を占める廃棄物処理部門は、前年度比で 8.7%減少しました。この要因としては、排出量の 80%以上を占める一般廃棄物について、処理量がわずかに減少したうえに、混入している廃プラスチック類の割合が減少したため、焼却される廃プラスチック類の量が減少したことがあげられます。